



# 福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

第7号

発行日 平成21年3月9日

〒960-1295 福島市光が丘1番地/TEL (024) 547-1111(代) ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

## 患者さんの視点に立って



副病院長兼看護部長 **北原 和子**

大学の法人化と同時に現職に就任し、早いもので、3年が経過しようとしています。2008年には、全国の230施設で看護職の副病院長が誕生し活躍している伺います。役割として重要なことは、病院職員の半数近くを占める看護職が患者さんに24時間、一番近いところで看護をしている代表として、患者さんの視点に立つ

た病院経営、運営、医療（看護）の提供ができるよう提案、実践することと考えております。

今、医療を取り巻く環境は日々変化していると同時に、諸課題の対応はスピードが要求されます。このような中、私の副病院長の主な担当は①「患者サービス向上」②「病院機能改善」に関することです。①は、患者サービス向上委員会の活動を通して、患者さん、病院訪問者、学生、職員から「選ばれる病院」になることを目指して、接遇、病院のアメニティの改善、投書の対応、サービスに関する研修会の開催などを行ってまいりました。②は、手厚い看護の提供に向け「7対1の看護配置の体制」を整備すること、また、部門、部署等で目標管理による「患者サービスの向上」、「よりよいチーム医療」、「経営改善」等に関する取り組みを進めています。

法人化前には実行できなかった諸問題・懸案事項は、着実に取り組み、患者サービスの向上、機能充実に向け前進していると言えます。

今後も、患者さん、職員の皆様のご理解とご協力を得て、より良い魅力ある病院づくりに邁進していかねばと取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。

## 外来化学療法センターのリニューアルオープン

臨床腫瘍センター センター長 **石田 卓**

外来化学療法室が、より快適な外来治療をめざして、本年1月5日に「外来化学療法センター」としてあらたにオープンしました。昨年までは病院2階の第二外科の処置室を間借りしておりましたが、ほぼその真上にあたる3階に移転しました。

これまでは13床でしたが、広さにゆとりができたため、ベッド10+チェア10の計20床でのスタートです。壁紙も優しい柄のものを選び、天井灯も横になって上を見たときに目に優しい光になるように設計しました。車椅子対応のトイレもあり、専用のBGM装置も設置されました。DVDソフト・再生機の無料貸出しも引き続き行っています。

センター内にはあらたに無菌調剤可能なミキシングルームが設置され、専任の薬剤師が治療薬の準備をそこで行うため、患者さんの待ち時間も短縮されています。

移転当初、会計などの混乱が多少あり、利用者の方によってはご不便をおかけすることがありましたことをお詫びします。今後も患者さんに優しく、快適な治療ができるように工夫していきます。みなさまどうぞよろしくお願い致します。



### 第7号のなかみ

- 2ページ…… ○第三内科のご紹介  
○頭痛専門外来を4月より開設します  
○附属病院内サイン工事について

- 3ページ…… ○病気のまめ知識 冬の乾燥肌対策  
○看護助手にユニフォームができました  
○「きいてください 院長さん」投書箱から

- 4ページ…… ○栄養士からアドバイス  
—みなさんは朝ごはんを食べていますか?—  
○「機械設備管理 ダイダン」です  
○病院ボランティア「けやきの会」りれー通信5

「教育」から「就職」までトータルサポート  
ニチイだからできること。

教育事業

医療事務・ホームヘルパー講座 他

医療関連事業

ヘルスケア事業

医療事務のお仕事に興味のある方は、どうぞお問い合わせください。

株式会社ニチイ学館 福島支店

TEL 024-524-2835

〒960-8031 福島県福島市栄町6-6 UNIXe 113F



マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店(エレベーターホール隣)  
ローソン福島県立医科大学店(福利厚生棟内)

## 第三内科のご紹介

### 内科学第三講座 加藤 哲夫

第三内科は、腎臓・高血圧内科と糖尿病・内分泌代謝内科として高血圧、糖尿病、高脂血症など、いわゆる生活習慣病とよばれる疾患や、腎臓病、内分泌疾患などの研究と診療をしています。御存知のように高血圧は患者数約4000万人、糖尿病は予備軍まで含めると約2000万人の方が罹患しているとされる日本人に最も多い病気であり、合併症も全身の臓器に及ぶ点で、高齢化に向かう日本人が健康に暮らしてゆくために今後ますます重要となる分野の一つです。

一方で、最近これらの病気は別々のものではなく、相

互に関連することが明らかになってきています。例えば腎臓が障害される事によって、心臓や脳の血管にも障害が起きる可能性がある事から、慢性腎臓病（CKD）として重要視されるようになりました。したがってCKDの方には腎臓のみならず、各臓器について綿密な検査と治療を行う必要があります。また糖尿病は腎臓、目、神経などにおきる様々な合併症に適切に対処していかなければなりません。

第三内科では、これらの疾患群に対して、専門スタッフが地域の医療施設との連携をとりながら最先端の診療と研究・教育を行っています。

## 頭痛専門外来を4月より開設します

麻酔・疼痛緩和科外来では、「ペインクリニック」といって神経ブロック注射などで痛みを和らげる治療を行っています。いろいろな部位の痛みがありますが、日本人では成人の約4割が頭痛もちであるといわれています。しかし、頭痛もちの多くの方は病院に行かず、市販薬を飲んだり、じっと我慢されているのが現状です。頭痛はいくつかのタイプに分けられますが、タイプによってそれぞれによく利く薬が違いますし、神経ブロックが非常によく利くタイプの頭痛もあります。なかでも「トリプタン」という薬は片頭痛などに有効で、医療機関でしか扱っておらず、市販の

鎮痛剤よりも効果が高いことが知られています。タイプに合った薬を飲まないで却って痛みが強くなることがありますので、自己判断での薬の服用には注意が必要です。頭痛を起こさなくすることはできないかもしれませんが、頭痛が起きて薬や神経ブロックで早めに抑えて、普段どりの生活を送ることが出来ます。適切な治療、生活指導により頭痛を克服していきましょう。頭痛専門外来は21年4月より、毎週木曜日の午前中に麻酔・疼痛緩和科外来にて行う予定です。頭痛でお悩みの方は一度受診されてみてはいかがでしょうか。

## 附属病院内サイン工事について

光が丘に附属病院が移転してから21年が経過し、院内の表示や誘導サインの劣化が進んでいますので、これらを改修することとなりました。

新しいものは、文字のサイズや形に配慮し「読みやすく」、絵文字などを活用して「わかりやすい」表示とし、色も連続させることにより「迷わずに」目的の場所へ到着できるようにします。また色彩は安心感があり居心地

のよいものを目指しております。

掲示物なども決められた掲示板に貼ることにより建物内部を整理された雰囲気といたします。改修工事場所は1階と2階になり工事期間中は来院者の皆様にご迷惑をおかけしますが、よりよい病院づくりを目指しておりますので御協力をお願いいたします。

(改修の一例)



現 況



改修イメージ

皮膚科学講座 山本 俊幸

例年秋から冬にかけて、体のあちこち（特に膝から下、腰、背中）が痒くなる方が大勢みられます。これは、まわりの空気が乾燥する影響を受け皮膚の水分・脂分が不足するため、加齢に伴いひどくなります。皮膚の一番外側は角層といって、外界から内部を保護するバリアー機能と同時に、水分蒸発を防いでいます。肌が乾燥し、このバリアー機能が低下すると、ささいな刺激にも過敏に反応し痒みを感じやすくなります。

膝から下を例にとると、白い粉をふいたような状態が皮脂欠乏症といって、さらに炎症（赤み）が加わり、ひび割れのようにみえる状態になると皮脂欠乏性湿疹になります。また、10円玉くらいの大きさの湿疹が数箇所出てくるものは貨幣状湿疹と呼ばれます。

乾燥肌への対策としては、入浴時の石鹸使用は構いませんが、湯上りのまだしっとりしているうちに保湿剤（保湿効果を含むクリームやワセリン）をうすく伸ばしてぬります。ゴシゴシ擦りこむのはよくありません。石鹸は、汚れと共に、皮膚に必要な脂分まで落としてしまうので、入浴後に外から補う必要があるのです。石鹸の使用回数を減らすのもよいでしょう。水分を沢山摂取しても皮膚の乾燥はよくなりません。垢すり、ボディブラシ、ナイロンたわし、スポンジの使用はやめましょう。あまり熱い湯につかるのも逆効果です。温泉は硫黄の成分が強いものは避けるのが賢明です。

肌着は木綿のものが良く、ナイロン、ウール、毛糸などの素材はやめ、また縫い目が当たってチクチクする場合も注意が必要です。痒くなると無意識のうちに引っ掻いてしまいますが、引っ掻く行為によって湿疹は悪化しますので、掻かないことが大切です。そのため痒み止めの飲み薬が必要になることもあります。爪は短く切っておきましょう。



皆さんは看護助手という職業をご存知でしょうか。

看護助手は、患者さんの食事の介助や、ベッドメイキングなどの環境整備を行ったり、患者さんの車イスでの移動をお手伝いしたりする他、看護師のアシスタント的な業務を行い、看護チームの一員として、看護の質の維持・向上に協力しています。日常的に患者さんと接する看護助手ですが、看護師免許を持たないため、点滴の交換や吸引などの医療行為を行うことはできません。今まで看護助手の勤務時の服装は、通勤時とは区別したものを着用してもらう以外特に決まりは無く、患者さんから「私服のため清潔感が無い」とご指摘がありました。そこで、私服とは区別して清潔感を保ち、患者さんに見て職種の区別がつくよう、平成21年4月から、看護助手については写真のユニフォームを着用する予定です。ユニフォームの色は、暖かみのある薄いピンク色を選びました。

患者さんが少しでも過ごしやすく、安心して治療に取り組めますよう、看護助手もお手伝いしてまいりますので、何かありましたらお気軽にお声をかけてください。



「きいてください 院長さん」 投書箱から



「何の検査をしたのかわからない」、「検査略称がわからない」など病院で行う検査に関する投書が多く寄せられております。

検査部では、主要な血液検査、生化学検査について、略称、検査名称、基準値などを入れたパンフレットを作成することといたしました。病院でお渡ししている検査結果は略称表示になっているため、患者さんには何の検査かわかりにくいところがありましたが、パンフレットを参考にしていただければ、検査の内容、名称、基準値がおわかりいただけるものと思います。パンフレットには、少しだけですが検査項目の説明も入れたいと考えております。

また、検査部では、検査内容を患者さんにわかりやすく説明した「検査部だより」を定期的に作成することにしております。第1号は3月に発行を予定しておりますので、待ち時間などを利用してお読みいただきたいと思います。

なお、検査については、担当医あるいは検査部職員にお気軽にお尋ねください。



お知らせ

リハビリテーション機能の充実を図るため、リハビリテーションセンターの増改築工事を実施していましたが、21年4月から運用開始予定です。

## 栄養士からアドバイス —みなさんは朝ごはんを食べていますか?—

布団から出るのに少し勇気のいるこの時期、朝ごはんを後回しにしてはいないでしょうか?

平成19年度の国民健康・栄養調査によると、朝ごはんを食べない人の割合は、男性は30歳代で約3人に1人、女性は20歳代で約4人に1人で、年々増加傾向にあります。

健康的な一日は、朝ごはんから始まります。朝ごはんは、味・におい・視覚・音・舌触りなど体の五感を刺激し、体を目覚めさせ、体温を上げます。さらに、集中力が高まることから、食べる子供の方が食べない子供に比べて、成績が良いという調査結果もあります。

それでは、どのような朝ごはんが望ましいのでしょうか?

大切なのは、脳に唯一のエネルギー源であるブドウ糖を供給するごはんやパンなどの主食、卵や肉、魚、納豆などの主菜、そして、野菜をたっぷり入れた具沢山の味噌汁やスープなど

はいかかでしょうか。野菜をたっぷり入れれば、副菜としても汁としても大満足な一品に仕上がります。

朝ごはんを五感を刺激して、今日も元気に一日を始めませんか?



## 「機械設備管理 ダイダシ」です



皆様には、機械設備管理とは何をするのか聞き慣れない言葉だと思しますので業務内容など説明させていただきます。

私たちが常駐している場所は、病院地下中央からやや東寄りの北側に位置する中央監視室です。室内には病院の空気調

和、衛生設備機器の運転状態を監視出来るモニターが設置され、機器の運転や停止、病院内の空調温度・湿度の調整を行い入院患者さん、外来患者さんやお見舞いで来院される方々が快適に過ごす事ができるように調整を行っています。

壁面には電力・防災・熱源・エレベーター・搬送・エアシューターの表示パネルを配置し、24時間運転状態の監視を行っています。

他には病院内の設備機器の点検、整備を行い常に設備機器の能力が十分出せる状態を作り、病院内の住環境を最適に保つ事が出来るように、空気調和だけでなく給排水衛生器具の整備点検も行っています。

給水については週1回ごとに消毒用の残留塩素測定、給湯については温度及び残留塩素測定を行い雑菌の繁殖を防いでいます。他にも、排水の詰まり直しやトイレ・洗面所等の衛生陶器・排水金物・水栓の整備点検、屋外の雨水排水管清掃等の業務も行っています。病院医療の裏方的役割を果たしている部署と捉えていますので空気調和、給水、給湯、排水、衛生器具の不具合があれば、直ぐに改善しますのでよろしくお願いたします。

## 病院ボランティア「けやきの会」 りれー通信 5

### 「楽しみのボランティア」 和田 裕子

病院のボランティアは、福島に来てすぐに始めたので、そろそろ6年になります。それまでは10年以上、水族館で魚を相手にしていたので、人間の、しかも、病気や悩みを抱えていらっしゃる患者さんのお手伝いをうまく出来るものか、少し不安でした。

初めの頃は、ひたすら自動受付機の奥に居を構え、優しくてきばきと患者さんを案内する先輩ボランティアの様子を見ながら、こわごわでしたが、今は、いろんな患者さんとお話出来るのが、楽しくなりました。

ボランティアがいいなと思うことの1つに、効率を求められないことがあります。

1日に千何百人と来られる患者さんは、病気に不安を抱えた

り、これから始まる診察に緊張したり、手続きは分かるかしら? 荷物はどうしよう、診察室まで一人でいけるかしら? と、大なり小なりとまどいや不安をもっていらっしゃるの、入り口に立っているとよく分かります。

患者さん全員を、もれなく時間内に対応しなければならないスタッフの皆さんの中で、病院に入ってからすぐのここだけは、ゆっくり、自分のペースにあわせてお話しなり、お手伝いなり出来るスペースなのが、とても気に入っています。

余談ですが、魚の世界への思いもいまだ断ち切りがたく、将来、院内に水槽設置の機会もねらっています!



## ニュースレターの広告を募集しています

年4回発行の患者さん向け広報紙「福島医大病院ニュースレター」では紙面掲載する広告を募集しております。

お問合せは病院経営課 病院総務係までお願いします。



公立大学法人

福島県立医科大学附属病院

電話 024-547-1021 メール f-idaihp@fmu.ac.jp

## スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時~20時  
土日祝 9時~19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。

高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

